## 1月の行事報告 *January*

### 平成30年度中原寺仏教壮年会年次総会を終えて 平成30年1月28日 14:00～

平成30年1月28日(日)午後2時より本堂のご仏前にて、恒例の「お供茶」を錦織総代のお手前でいただき、壮年会の新しい年の幕開けです。 当日は晴れのち曇りの天気でありましたが幾分か暖かい一日でした。

はじめに真宗宗歌を合唱し、ご住職の調声にて正信偈を厳かに皆で唱和して、ご住職ご挨拶、続いて石井会長の挨拶があり、そのあと議長を選出して総会に入りました。 第1号議案「平成29年度活動報告」を石井会長が行い、引き続き村田副会長が第2号議案「平成29年度決算報告」を行い、横田監事が監査報告をされました。

次に平成30年度の目標と方針(案)･行事計画(案)･予算(案)を石井会長が説明し、引き続き質疑応答に入りました。

いろいろなご意見をいただきましたので、これらを参考にしながら平成30年度の活動を行い、同時に会計も予算通りに進めたいと思います。

続いて前住職より年頭法話を聴聞し、最後に「恩徳讃」をご住職の演奏で合唱し、壮年会総会は無事終了しました。

二部は門法会館に移り懇親会です。乾杯の前に本年も前住職による落語独演会を開催。 演目は《粗忽の釘》を拝聴、昨年同様に本職顔負けの語りに大喝采でした。

また、これも昨年に続き、飛び入りで婦人会の前田さん･水澤さんが、艶やかな日本舞踊をご披露なされました。 身のこなしも柔らかくしなやかな舞に惚れ惚れ致しました。

今年も会員の皆さんが健康に過ごされ、またお寺に参詣して法話を聴聞致したいものです。合掌

（村田 太喜夫 記）

### 東京教区壮年会第38回結成記念日研修会に参加して 平成30年2月4日

中原寺から、石井壮年会長の先導で河合さん、村田さん、福島道宏さん、越田さんと入月の計6名で参加しました。

築地本願寺を第一会場とした開会式には、263名という予定をはるかに超える人数が集まり、「讃仏偈」の勤行で始まりました。 関係者の挨拶に続いて、記念講演は前田壽雄師（武蔵野大学准教授）による演題 「お念仏のみ教え 法然聖人と親鸞聖人」でした。

資料に基づき第一項、「親鸞聖人における法然聖人」は、とても分かりやすいご法話で、歎異抄の「親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべきと、よきひと（法然）の仰せをかぶりて信ずるほかに別に子細なきなり。」に集約されるように聴聞させて頂きました。

第二項の浄土三派の系譜では親鸞･浄土真宗と弁長･浄土宗鎮西派（知恩院、増上寺等）と證空･西山浄土宗（禅林寺等）は法然聖人を祖師に阿弥陀如来をご本尊とする兄弟教団とも再認識しました。

第三項の増上寺の五重相伝、第四項の念仏の功徳、第五項のお念仏の領解では浄土宗と浄土真宗とは子細をあげると違いがあるにしても、目指すは同じお浄土への“南無阿弥陀仏”の大道であり門戸が広く寛容あるみ教えと理解しました。午後からは第二会場の浄土宗･増上寺へ移動し、先ずは境内を説明頂きながら見学しました。 はじめの経蔵は普段は公開されないところで、歴史を感じさせる古い経文の箱が積んであり、中央にはマニ車を大きくしたような輪蔵があり、一周すると大蔵経を修学する功徳があるいわれだそうでした。

増上寺は徳川幕府徳川家の菩提寺として有名ですが15代のうち6代の墓所があり、説明を聞きながら見学させて頂くという貴重な経験もさせて頂きました。

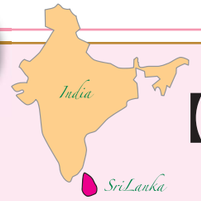
ご法話は布教師の伊藤さんという38歳の若い僧侶で、お念仏と木魚でお迎えし、法話前後に抑揚つけた“十念念仏”を称えるという荘厳な雰囲気でした。

テーマは「機教相応」、つまり末法の時代の機根（人々の能力）には浄土の教えのみが相応しいというご法話で、法然聖人の有名な”大原問答“にも触れられたご法話でした。

以上、簡単ですがこの度の壮年会研修の概要をご報告申し上げます。

（入月 正 記）

感話 シリーズ-24




## 【スリランカ紀行】

—前住職 平野俊興—

お釈迦さまの聖地とされるインドには今までに三度巡拝しましたが、インド洋の南に位置する島国スリランカ（旧名セイロン）にもいつか行ってみたいと思っていました。

仏教はお釈迦さまがご入滅されてから北と南に伝播してゆきましたが、 北に伝わった北伝仏教（大乗仏教）は、現在のパキスタン北部やアフガニスタン、中央アジアから中国、朝鮮半島を経て6世紀ごろ日本に伝わりました。一方、南に伝わった南伝仏教（上座部仏教）は、スリランカを経て主にインドシナ半島の東南アジア諸国に海路で伝わりました。

そうした中でスリランカは国民の7割が今も仏教徒であり数々の世界遺産があって、 仏教の歴史を知るうえでとても興味を持っていました。それに多くの国や民族を経た長い歴史を通して日本に伝わった仏教が、 かなり中国の思想（道教や儒教）の影響を受けたという観点からすると、 スリランカは紀元前3世紀に伝来した初期仏教が今でも残り、信仰されているのではないかと大いに関心を持っていました。

さて、 中原寺一行9名（男性3名、 女性6名、壮年会からは篠田さんが参加）は3月4日から10日の日程で成田から首都コロンボへのスリランカ航空直行便で連日気温30度の地を元気に旅してきました。

2200年以上の歴史を誇るダンブッラの石窟寺院、壮麗な色彩を放つ天井画と仏像群の圧倒的迫力。アヌラーダプラの純白に輝く巨大な仏塔と涅槃像の美しさ。11世紀から13世紀の間、第二の首都として栄えたポロンナルワの高さ約7メートルの腕を組んだ珍しい仏陀の立像。 そして一大聖地として多くの信徒が訪れ、 王権の象徴であり、信仰の象徴として崇められてきた仏陀の歯が安置されている有名な仏歯寺など。ここもあそこも太古の歴史を遺す聖地であるゆえに肌をあらわにした服装はダメで靴を脱ぎ帽子を取っての身の引き締まる巡拝でした。また一行はパーリー語の「ブッダーン サラナーン ガッチャーミー、ダンマーン サラナーン ガッチャーミー、サンガーン サラナーン ガッチャーミー」との三帰依を唱えました。

さらにスリランカ観光の目玉であるシーギリヤ･ロックは、ここの登頂のため旅行前に1日1万歩を目ざして散歩で鍛えた? 甲斐があって約200メートルの険しい岩山の1022段を登り切りました。 因みに完全登頂したのは私を含めて6人でした。 ここは5世紀末に兄弟の王位継承の悲劇で生まれた天空の要塞宮殿跡で、 中腹の岩肌に描かれた美しく豊満な女性たちのフレスコ画が超有名でシーギリヤ･レディと呼ばれています。

旅行の余韻に浸って紀行文が長くなりましたが、 皆さんに一つだけ覚えておいていただきたいのは、太平洋戦争後日本の敗戦処理に各国が賠償を求めましたが、スリランカの当時のジャワルダナ代表（のちに大統領）は日本に対する賠償請求権を放棄し、 その理由として、 仏陀の「怨みは怨みによって果たされず、 忍を行じてのみ、よく怨みを解くことを得るのである」と演説しました。

そんな優しく美しい国は、 あちこちに自然な動物たち（イグアナ、猿、白鳥、水牛、象など）がいて、特に人なつっこい子どもたちの黒い目と微笑みは、小さいときから仏陀の生涯を学ぶ心の育成からきているのだと思いました。

寺院には仏陀像と菩提樹と仏塔があり、蓮の花びらを供え、合掌し、仏塔の周りをお経を唱えながらめぐり、あるいは五体投地をする人びとの姿に崇高な絶対帰依の感情を見る思いがしました。

百聞は一見にしかず、どうぞ是非皆さんも訪れてください。 もう一度行ってみたい国です。